

東大島文化センターからの
お知らせ

2/25 (土)
2/26 (日)
成果発表会



東大島文化センターで活動している講座やグループが日ごとの成果を発表します。
キッズダンスや社交ダンス、コーラス、詩吟など幅広いジャンルの発表会です。お楽しみに。

2/26 (日)
スプリングサンデー



東大島文化センターで活動している講座・グループによる手工芸や茶道などの体験教室を行います。焼きそばなどの軽食販売、フリーマーケットもあります。
※体験教室の詳細は、カルチャーナビKOTO1月号に掲載。

東大島文化センター年末年始のご案内



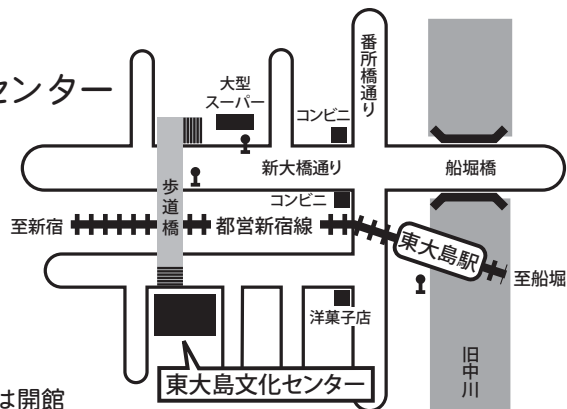
施設利用自動抽選 (1月受付分) エントリー期間

12/20(火)～1/4(水) ※レクホール・AVホール…平成29年7月分(東大島休館中)
※会議室・研修室・和室・美術室・音楽スタジオ…平成29年4月分

公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団
江東区東大島文化センター

電話 03(3681)6331
FAX 03(3636)5825
〒136-0072
江東区大島 8-33-9

【交通】都営新宿線「東大島駅」
大島口より徒歩5分
【休館日】第1・3月曜日休館
ただし国民の祝日にあたる場合は開館



東大島文化センター12 ニュース Dec.



- ① 改修工事のお知らせ/迎春展
- ② 水辺コラム/大島落語会
- ③ 「ぶらり小名木川」/おひなさま展
- ④ 成果発表会/スプリングサンデー



東大島文化センター 改修工事に伴う休館のお知らせ

東大島文化センターは、江東区長期計画に基づき、各施設及び建物の大規模改修工事(電気・空調・給排水設備等)のため休館いたします。施設をご利用の皆さまには大変ご不便をおかけいたしますが、より快適で効率的な施設づくりを目指してまいりますのでご理解、ご協力のほど、お願い申し上げます。

休館期間 平成29年7月～平成30年7月 (予定)

東大島文化センター
2017
迎春展
第21回 GEISYUN TEN

会期:平成29年1月4日(水)～13(金)
※団体により会期が異なります。
会場:東大島文化センター1階ロビー

- 7** ミニカー
アクリルメンタル展
1/7(土)～13(金)
※最終12時まで
協力:フラワーアレンジメント
- 書** 初展
1/5(水)～13(金)
協力:児童習字教室
- 和** 紙ちぎり絵展
1/4(水)～13(金)
協力:和紙ちぎり絵 中野フアミリー
- 新春** 華展
1/5(木)～8(日)
※最終15時まで
協力:江東区茶華道会
- 新春** 画展
1/4(水)～13(金)
協力:日本の風の会会員 江戸風保存会会員 田洲和夫

「自然から冬を占う」



KOKOPELLI+ 代表 寺田浩之

季節は秋から冬へ向かい、日に日に寒さが増してほとんどの生物にとっては耐え忍ぶ季節がやってきます。

カマキリの卵があちらこちらで見られるようになると本格的に冬が来たと感じられます。カマキリが卵を産む高さによってその冬の雪の量がわかるという言い伝えのような話がありますが、今年はかなり高い位置に産んでいました。真偽はわかりませんが、既に一度降雪があり、あながちでまかせでも無さそうに感じます。これは一部の蛾などでも起こることだと言われています。

来年の事を言うとかと鬼が笑うといいますが、1月から2月に大雪が降るのかな?とか、桜の開花が遅そうだ。とか…今から来年の自然の様子を予測してみるのも面白いですね。

当たるか当たらないかよりも、そういった自然の小さな変化に気づけるように常日頃から身の周りの自然をしっかりと観察していると自然を見る目が養われますし、面白い発見に多く出会えると思います。

さて、今年の冬の水の中は寒いのかどうかというと、これはなかなか難しい問題です。気温が下がれば

当然川の水は冷たくなるのですが、ご存知の通りこのあたりの河川は多少なりとも海の影響を受けます。今年の海水温はそこそこ高いようで、まだ海の中は秋のような状況だという話を聞きました。今年は夏から海水温が高い状況が続いたのか、かなり南方系の魚が東京湾の奥まで入ってきていました。

採集する側としては面白いのですが、これが慢性的に起きていとなると環境への影響も少し心配です。しかし、旧中川の中には、今年はずっとより早く冬が来ているように思います。10月末のかなり早い時期から浅場にいたマハゼは姿を消し深みに落ちていました。甲殻類も越冬の準備という感じで夏から秋を通り越して冬になってしまったようでした。なんだか地上の気温と同じような変化をしているようです。旧中川は内部河川として水の動きが起きにくいので、予想以上に海の影響を受けにくいのかもかもしれません。今後、塩分濃度も計ってみる必要がありそうです。

真水と海水が混じり合う環境は、水温ひとつとってとても面白いものですね。



小名木川リバーガイド倶楽部
会員 長友 景一

辰巳の八景

墨絵に霞む筑波山、蒼穹の空高く浮かぶ雲、晩秋の隅田の夕照を川面に映す小名木川、四季折々の風景を四百年間写し続けている。1650年ごろには、横十間川、大横川、竪川、そして六間堀の開削が進み、小名木川に繋がり、人、物資の移動も舟運により便利になり、川を上下する荷足舟(にたりぶね)の間を、奉行所の御用舟は探索に急いだようだ。この川の名は、時代小説にも度々登場し、この地を訪れたことのない読者にも知られているようだ。

小名木川周辺の深川村(1570年頃から)、砂村(1620～50年頃に)地域には、市街地、農用地としての造成開発が進められ、明暦の大火(1657年)後は、江戸城下から大名下屋敷、旗本屋敷、神社、寺院が多く移転してきている。大川に沿っては倉庫が建ち並び、1700年頃には、材木置場として、人家が少なく、火災の拡大にも心配なく、水運にも便利という条件で深川が選ばれる。木場の移転で、倉庫、問屋、材木商など商業の町となり、住民も増加していった。

一方、御府内一といわれ民衆の信仰を集めた富岡八幡宮、隣接する深川不動尊などは、江戸近在の人で賑わい、茶店が軒を並べ、食するところに酒の店、みやげ物などの客相手の店が繁盛して門前町へ、三味の音もしっとり、粋でいなせな下町へと発展していった。材木商、大店などの豪商の男衆の文化はなかったのだろうか。洋の東西に問うてみたのだが、記録になかった。深川祭(八幡宮)は、山王祭(日枝神社)、神田祭(神田明神)と並ぶ「江戸三大祭」の一つに数えられ、3年に一度の120基の神輿担ぎは、江戸っ子の最高の晴れ姿であったことだろう。

江戸時代、辰巳と呼ばれた深川地区は、風光明媚な趣のある景勝地、永代橋帰帆、一の鳥居夕照、永代寺晚鐘、木場の落雁、塩浜秋月、洲崎晴嵐、佃の夜雨、二軒茶屋暮雪を、辰巳八景、また、深川八景といわれた。これとは別の八景もあるようだが、江戸庶民に名所として親しまれたところである。小名木川も、静かな景観を映す水澄む川になりつつある。



【現在の小名木川】

【小名木川旧護岸】

第126回

大島落語会

恒例の「東大島落語会」、新春初笑いは1月20日(金)です。チケット好評販売中。皆さま、どうぞお楽しみに!



1/20(金) 19:00 開演

【出演者】: 三遊亭栄楽
【料金】: 一般 1,200円 / 中学生以下 500円 (当日各300円増)
※ 全席自由
【会場】: 東大島文化センター第1和室



童と遊ぶちりめんの世界

H29,2/19(日)～3/5(日)

北砂在住のちりめん細工講師、三好裕子氏のグループ「江戸の針」による、可愛らしい作品の数々を展示します。



展示のお知らせ
第11回 東大島おひなさま展
時間: 9時～18時
会場: 東大島文化センター1階 展示ロビー
出展: ちりめん細工 江戸の針
講師: 三好 裕子